

2022 日本学生スプリントトライアスロン選手権  
兼 トライアスロン・チームタイムトライアル選手権大会  
競技規則

○はじめに

本大会は日本トライアスロン連合(JTU)競技規則に加え、「2022 日本学生スプリントトライアスロン選手権 兼 トライアスロン・チームタイムトライアル選手権大会 競技規則」(本紙)に基づき、競技を行う。なお、特別に設定された項目以外はすべて共通とする。以下の日本トライアスロン連合(JTU)競技規則を大会参加前に必ず確認すること。

[https://archive.jtu.or.jp/jtu/pdf/JTU\\_COMPETITIONRULES\\_20190108.pdf](https://archive.jtu.or.jp/jtu/pdf/JTU_COMPETITIONRULES_20190108.pdf)

○大会運営について

- (1) 円滑な学生大会の運営を行うため、選手は大会プログラム(選手受付、競技説明会、ボディナンバーの記入、スタート地点への集合、その他の公式事項)の時間を守らなければならない。
- (2) 大会プログラムに出席できない又は遅れる場合は予め学連のメール([jutu19info@gmail.com](mailto:jutu19info@gmail.com))まで連絡しなければならない。
- (3) 大会当日の大会プログラムの時間等の変更は学連公式Twitterでの発信・大会本部前の提示・アナウンス等によるものとし、選手は各自の責任で変更事項について注意を払わなければならない。
- (4) 定められた時間に遅れる行為に対して厳格なペナルティを課す他、失格の対象とする場合がある。
- (5) 今大会では、エントリー料の入金遅れの選手に対し150秒のタイムペナルティを課す。

○競技備品・レースウェア以外の競技備品について

- (1) 競技コースにおける周回数のカウントは選手の自己判断とする。
- (2) ナンバリングは、両腕、両足、両手の甲の計6箇所とする。番号は上から下に書くものとする。
- (3) ハンドルバーにはテープを巻き、バーエンドはエンドキャップやテープ等で塞がなければならない。
- (4) ナンバーカードは必ず前後2枚着用しなければならない。競技中に突発的に外れた場合は、テクニカルオフィシャル(以下TO)に確認できるように提示するか、競技中に付け直せば、競技の続行を認める。
- (5) 周回数はアンクルバンドによって管理し、その周回数をオフィシャルの記録とするため、アンクルバンドは必ず着用しなければならない。
- (6) いかなる理由があってもアンクルバンドが外れた状態でフィニッシュした選手は失格とする。
- (7) ディスクブレーキの使用を許可する。
- (8) 本大会は、バイクコース上にストックホイールの設置エリアを設ける。
- (9) 競技者以外の人間が選手に対しストックホイールを受け渡す行為を禁止する。行なった場合は選手を失格とする。

- (10) ストックホイールは出場選手が1~19名の場合、団体ごとに前後輪1組のストックホイールとし、20名以降は10名増えるごとに1組ずつ追加となる。ストックホイールはリムホイール、ディスクバイク用ホイールの2種類をそれぞれ用意することができる。

例)リムホイール、ディスクバイク用ホイールを使用するとき

・出場選手が1~19名の場合：リムホイール1組、ディスクバイク用ホイール1組

- (11) 競技中に機材が壊れた場合、壊れた機材について運営側は一切の責任を負わない。

#### ○レースウェア

- (1) レースウェアは学校・大学チーム名・及び市販されている状態でのメーカー・ブランド・ショップ名のロゴ表示のみとすることを推奨する。
- (2) フロントファスナーがついているレースウェアの使用を認めない。
- (3) レース中、レース後に上半身裸になってはいけない。

#### ○スイム競技

- (1) 今大会は、スイムスキップを認めない。
- (2) 水温に関わらず、ウエットスーツの着用を義務とする。
- (3) スイムの競技の制限時間を30分とする。
- (4) 各選手がスイムキャップを用意する。
- (5) ウエットスーツの下にゼッケンベルトを装着することを認めない。
- (6) 入水チェックは指定された時間のみ可能。入水チェックを行わなかった者は失格とする。
- (7) 入水チェックを済ませた選手は原則、競技エリアから出ることはできない。
- (8) 危険回避、体調保全のため、競技を中止し、コースブイ、ロープ等につかまって小休止をとることを認める。ただし、これらを利用し、移動することは認めない。
- (9) 競技中に救助を求める場合は、片手を頭の上でふり、声を出して救助を求めること。
- (10) フライングが認められる場合にもスタートは原則として行わないが、当該選手にはペナルティを与える。

#### ○トランジション

- (1) 競技備品はトランジションエリア開放の時間帯のみ、これを搬出・搬入することが出来る。
- (2) 競技備品は通路や選手の妨げにならないように設置しなければならない。TOは選手の公正な競技を確保する目的で、これを移動させる場合があり、又選手に対してペナルティの対象とする場合がある。
- (3) バイクをラックに掛ける時は、ラックナンバーが手前に見える向きのサドル掛けとする。向きを逆にした場合、他の選手に対する妨害行為とみなし、ペナルティの対象とする。
- (4) バイクを戻すときは、最初と同じ向きにかけなければならない。違反者はペナルティの対象とする。

- (5) ヘルメットのストラップはラックからバイクを取り出す前にしっかりと締めること。  
バイクフィニッシュ後は、バイクをラックに掛けた後にストラップを外すこと。
- (6) ナンバーカードはバイクを取り出す前に必ず2枚装着すること。装着せずにバイク競技を開始した選手は失格とする。
- (7) トランジションエリア内及び乗降車ラインでの違反があった場合、TOの指導を受けてその場でやり直さなければならない(ストップ・アンド・ゴー)。TOによる直接の指導が現実的に困難な場合はタイムペナルティを課す。
- (8) 競技中を除いて、審判員の許可が無い限り、トランジションエリア内に入出入りすることはできない。
- (9) トランジションエリア開放後、競技備品の回収には選手本人があたり、入口、出口の両方でナンバーカードを係員に提示すること。救護にかかっている等で競技備品の回収が出来ない選手については、当該選手と同じ、大学・チームの者に回収の代理を認める。その際、当該選手のナンバーカードを持参すること。
- (10) トランジションエリアの競技用具は、許可があるまで取り出すことは出来ない。ただし、特別な理由がある場合のみ、審判長又はトランジションを統括しているTOの許可を得て持ち出すことが出来る。
- (11) トランジションエリアクローズ時間以降のエリア内での設営は原則として認めない。

#### ○バイク競技

- (1) 競技に用いるバイクはロードレーサーを基本とする。
- (2) バイクはJTU競技規則、競技用バイク基準に則ったものでなければならない。基準に則っていない場合、レースへの参加は認めない。
- (3) ディスクブレーキの使用を認める。
- (4) ドラフティング禁止レース(男子スプリントオープン、女子スプリント選手権・オープン)のみに出場する選手にDHバーの仕様を許可する。
- (5) ドラフティング許可レース(男子スプリント選手権、女子チームTTのチーム内、男子チームTTのチーム内)に参加している選手のDHバーの使用は認めない。

#### 要注意

DHバー許可レースに出場した後、DHバー禁止レースに出場する選手は、最初に出場するDHバー許可レースにおいてもDHバーを使用することはできない。

レース間隔が短い本大会で、該当する選手全員が確実にDHバーを外すのに必要な時間、トランジションエリアを確実に開放できる保証がないため。

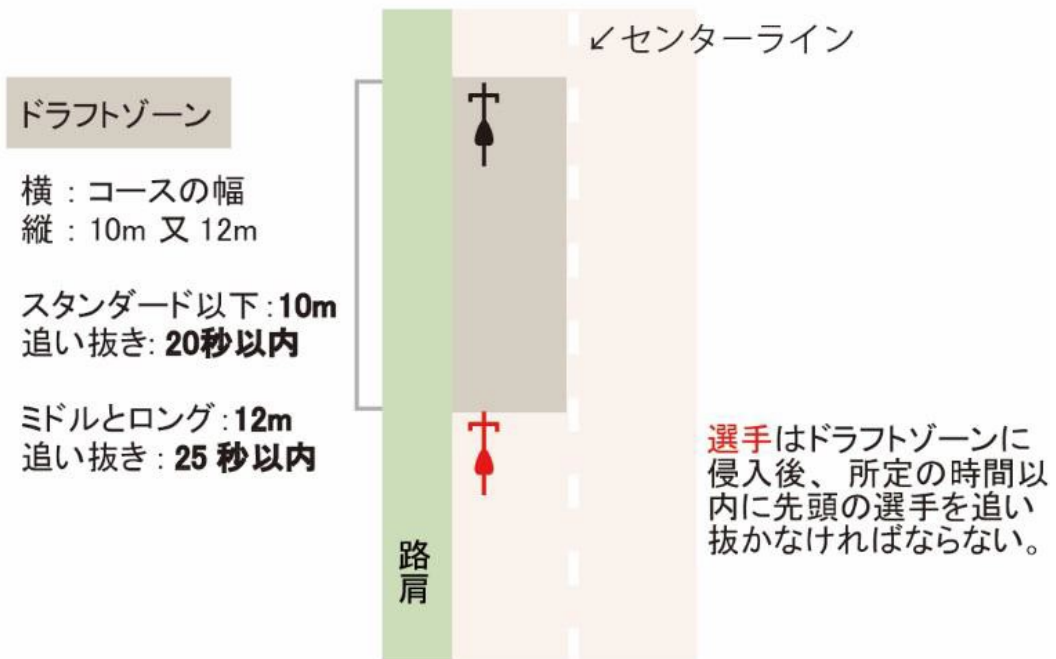
例)男子スプリントオープンと、男子チームTTオープンの2レースに出場する選手は、最初に出場する男子スプリントオープンにおいてもDHバーを使用することはできない。

- (6) 乗降車ラインについて。タイヤではなく選手の足を基準とする。乗車時はラインを足が1歩超えてから乗車し、降車時はラインの手前で足を1歩ついてから降車すること。
- (7) 今大会は、ドラフティング、ブロッキングの取り締まりのため、定点観察で競技の様子

を撮影し、ペナルティの判断材料とする。

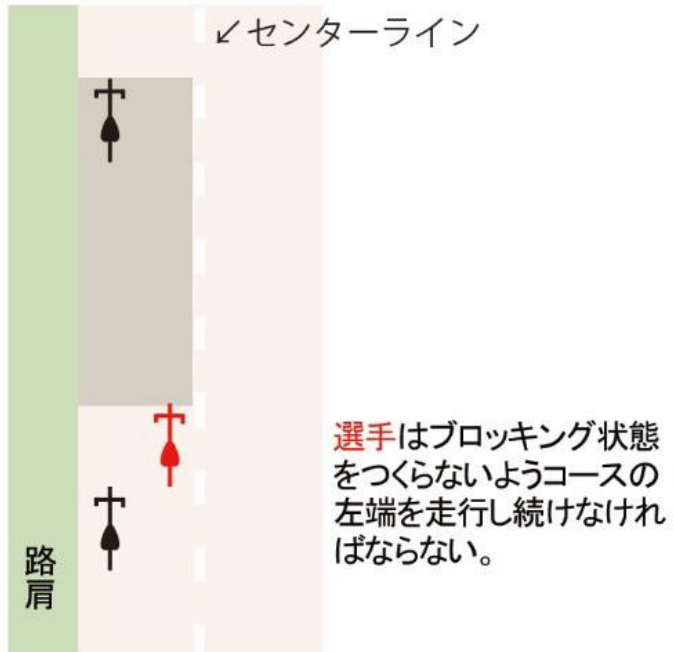
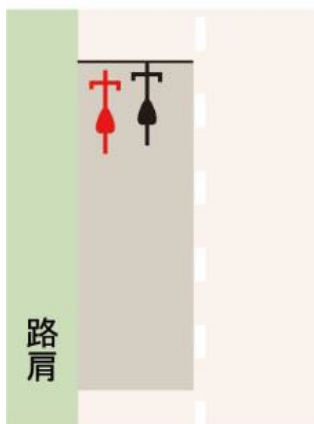
- (8) コースの状況によって TO が発する減速等の注意事項に従って競技すること。
  - (9) キープレフトを守り、競技を行うものとする。キープレフトとは、路肩あるいは競技コース左端から走行するものである。
  - (10) 周回数のカウントは選手の自己管理とし、サイクルメーターの装着を推奨する。
  - (11) バイク競技中、バイクの故障が発生し、かつこれを修理することによって競技の続行を希望する場合、修理は独力で行わなければならない。
  - (12) ドラフティング走行は他の選手又は車両のドラフトゾーンの中に入って走行することである。今大会のドラフトゾーンは、前輪の先端から測定して縦10メートルである。
  - (13) 並走したままバイク競技を行うことを禁止とする。ただし、危険回避のためにやむを得ない場合のみこの限りではない。危険が回避された場合は直ちに並走を解除しなければならない。
  - (14) ドラフトゾーンに進入しているかどうかに限らず、チーム TT レースのチーム内以外の選手と集団走行にならないよう心がけなければならない。
- (15) ブロッキングをしてはいけない。ブロッキングの行為は以下のものとする。
- ① 後続の選手が前を行く選手の走行位置が不適切で追い抜けない場合
  - ② 先行する選手を追い越したとき、追い越した選手のバイクの前輪の最前部から追い越した選手のバイクの前輪が最前部から間隔を10メートル以上に開けないで追い越した選手がキープレフト走行すること。
  - ③ 他の選手の右側を、他の選手と同一の速度を保ったまま走行し続けること。この場合において、他の選手のドラフトゾーンに進入しているかどうかを問わない。
- (16) 追越しを試みる場合、20秒間、他の選手のドラフトゾーンに進入出来る。追越しを行う場合は、声をかけることを推奨する。
- (17) 追い越された選手は、追加した選手のドラフトゾーンから後退し、通過選手のドラフトゾーンから脱落しなければならない。ドラフトゾーンから脱出する前に、通過した選手を追い抜くことは、ドラフティング違反となる。追い越された選手が、規定のタイム以上に通過した選手のドラフトゾーンにいることは、ドラフティング違反となる。

## ドラフティング



## ブロッキング

選手は別の選手の前輪が先に  
出た時、**追い抜かれた**と見な  
される。一度追い抜かされたら、  
前の選手のドラフトゾーンの外  
に**5秒以内**に出なければならない。



### ○ラン競技

- (1) キープレフトを厳守する。
- (2) 周回数のカウントは各選手の自己責任とする。ランウォッチを装着することを強く推奨する。
- (3) 支柱、木やその他の構造物を視点として掴み、カーブを回ってはいけない。
- (4) 応援関係者及び他の選手の競技者への並走を認めない
- (5) 選手は、胴体のどこか一部がフィニッシュラインの上に伸びる垂直線を超えた時点でフィニッシュしたと判断される。
- (6) フィニッシュ後にサイドコースに入ることを禁止する。

### ○ペナルティ

- (1) JTU 競技規則及びローカルルールに違反する行為に対してはペナルティを与える
- (2) ペナルティの種類は、指導、ストップ・アンド・ゴー、タイムペナルティ、DSQ(失格)、資格停止、除名、追放とする。
- (3) 各種ペナルティの通知は、TO がその違反を行った選手のレースナンバーを告げるとともに、イエローカード、ホイッスル、または、ホーンなどを用いる。しかし、これらの行為は必須条件ではない。
- (4) ストップ・アンド・ゴーを課す場合は、TO から当該選手にレースナンバー及び「ストップ」「止まりなさい」などの通知、ホイッスル、イエローカードを提示し、違反行為があったことを知らせるとともに、ストップ・アンド・ゴーが適用される。  
ストップ・アンド・ゴーが適用された場合、選手はコースの左側、TO が指定する場所所で一旦停止し、TO の指示に従って、競技を再開しなければならない。
- (5) ドラフティング・ブロッキングに関するタイムペナルティは1回目を60秒、2回目をDSQとする。その他の種類のタイムペナルティは10秒とする。  
エントリーや大会プログラムで定めた時刻に遅れる行為に対しては、この限りではない。
  - ・入金遅れ、選手受付への遅れ：150秒
  - ・大会プログラムで定めた時刻への遅れ：10秒ただし、悪天候の不可抗力が理由で生じたペナルティに関しては、審判長及び審議委員会の判断で柔軟な対応を取る場合もある。
- (6) ドラフティング違反のタイムペナルティを通知する場合  
ホイッスル等を鳴らし、ブルーカードを提示し、当該選手のレースナンバーを述べ、ペナルティを通知する。  
その他の違反のタイムペナルティを通知する場合  
ホイッスル等を鳴らし、イエローカードを提示し、当該選手のレースナンバーを述べ、ペナルティを通知する。
- (7) タイムペナルティを課された選手のレースナンバーは、ペナルティボックス内のペナルティボードに表示される。ペナルティボックスに入らずにフィニッシュした場合、当該選手を失格とする。
- (8) TO からのペナルティボックスへの誘導はない。選手は各自の責任でペナルティボードを確認しなければならない。
- (9) ペナルティボードに記載する文字コード

D：降車違反

E：用具の収納違反

S：スイムでの違反

L：用具・ゴミの不当投棄

M：乗車違反

V：その他の違反

※2回以上ペナルティを行なった選手には(10秒)×(ペナルティの回数)の秒数をタイムペナルティとして課す。

- (10) ペナルティを競技中に適用されなかった場合でも、レース後に違反が認められた場合は、ペナルティを与える。
- (11) コースのショートかっつと、周回不足等で規定の競技距離をカバーしていない者は失格とする。これに気づいた場合は元の位置に戻れば競技を再開できるが、フィニッシュした後は、再度コースに戻ることはできない。
- (12) 失格は、繰り返しのドラフティング違反、危険行為、スポーツマン精神に反する行為があげられる。
- (13) 資格停止、追放は更なる重大な行為があった場合に適用される。

#### ○オフィシャルについて

- (1) オフィシャルはこの規則にそって大会を運営する義務がある。
- (2) 審議委員会は、古閑爽太郎、栗原豊季、茂木利明、長嶋政光によって組織される。

#### ○抗議(プロテスト)について

- (1) 審判長の判定、その他のことに関して不服がある場合は、抗議ができる。ただし、以下に関することは抗議を受け入れない。
  - ①ドラフティング②ブロッキング③暴言などスポーツマン精神に反するも
- (2) 抗議がある場合は、審議委員会に対して行う。
- (3) 審議委員会は必要によって関係者に事情聴取を行うことがある。

#### ○メディア規制について

- (1) 大会当日に大会に関するいかなる写真・ビデオ等の撮影において、必ず大会本部の許可を必要とする。許可なく撮影したものは、大会役員が撮影データ等の閲覧を要求し、不適切であれば、データの削除に応じなければならない。
- (2) 許可には身分証明書と連絡先の提示を必要とする。提示後、メディアカードを配布し、撮影時は首からつるし、撮影をするものとする。撮影終了後、必ず、メディアカードを本部まで返却しなければならない。
- (3) 競技中はトランジションエリア内の撮影を一切認めない。

○応援について

- (1) 本大会は競技者以外の競技に対し、順位や前の選手との時間差を伝えることを認める。ただし、拡声器を用いてはならない。
- (2) 応援者又はコーチが特定の競技者と並走又は追走することは個人援助とみなし、禁止とする。
- (3) 競技中に競技者以外のものが競技者に対して、補給物資や装備の受け渡しをした場合、個人援助とみなし、受け取った選手は直ちに失格とする。但し、本大会において TO 又はボランティアスタッフからの給水、木陰への移動に関してペナルティは課さない。
- (4) マナーとモラルを持った応援を心がけること。

○その他の注意事項

- (1) 前日試走について。コースを確かめたい場合は、渡良瀬遊水地のマナーに沿って行う。遊水池のマナーに違反して走行している選手に対しては、厳格なペナルティを与える。以下のURLを参照すること。

<https://www.ktr.mlit.go.jp/tonejo/tonejo00146.html>

【内容を一部抜粋】

1. 自転車、ランニング、インラインスケート、ローラースケート等で貯水池内道路を走行する際は「反時計回り（左回り）」とし、左側通行を心掛ける。
  2. 自転車、インラインスケート、ローラースケート等で渡良瀬遊水地内を走行する際は、常に歩行者等、他の通行者及び作業車両等に注意し、すれ違いや追い越しの際には、急な飛び出しにも即座に対応できる速度で走行する。
  3. 自転車で走行する場合は、徐行エリア及び交差点部を最徐行する。また、集団走行をする場合は、事前申請し、許可を得なければならない。
  4. 球技を行う際は安全上十分な広さを取り、道路上では行わないこと。
- (2) 必ず指定された駐車場を利用すること。
  - (3) 多くの車両が入り出る駐車場ではバイクの乗車を禁止とする。駐車場でバイク乗車についても厳重注意を与えることとし、それが複数回及ぶ場合は失格・出場停止とする。
  - (4) 受付の際には、本人確認のため、写真付きの身分証明書(学生証、免許証など)の提示を義務付ける。
  - (5) 前日のバイクチェックは行わないものとする。各自で責任を持ってバイクを整備、ヘルメットチェックをすること。
  - (6) 悪天候等が原因で、安全に競技を実施することができないと判断された場合。コースが変更される場合がある。大会本部からのアナウンスに十分注意する。
  - (7) 一般客、ボランティアスタッフ、大会役員、審判員等への不適切な言動はおこなわない
  - (8) 目に余る危険行為、替え玉出場、ドーピング等の不正行為は失格とする。
  - (9) リタイアする場合は、必ず、選手本人又は代理人が近くの TO または大会本部にアンクルバンドを提出しなければならない。
  - (10) エイドステーションから提供されるコップ等は指定された場所に捨てること。
  - (11) 補給食等のごみをコース上に故意に捨ててはいけない。
  - (12) イヤホン類、ガラス製品、通信機器(スマホなど)の使用は禁止とする。
  - (13) フィニッシュ後はレースナンバーを速やかに外すこと。
  - (14) 校旗やのぼりをフィニッシュゲートに取り付けることはできない。



【競技コース図】



【大会本部・トランジションエリア・フィニッシュエリア等詳細図】



本紙の内容に変更が生じた場合は、学連公式Twitterにてお知らせいたします。

問い合わせ先  
日本学生トライアスロン連合審判委員会  
[jutu19info@gmail.com](mailto:jutu19info@gmail.com)